

伸さうな枝のそよきや糸柳  
 眠る間もすれあふ鴛のつかひ哉  
 一折ておけぬ暦の見そめかな  
 黄鳥にかまはずに鳴す、め哉  
 磯に人うら、かな日と成にけり  
 一調子あるや雀もはるの水  
 積柴をく、り行けりはるの水  
 我声の飮したふや猫のつま  
 初空も□と□けり浅□原  
 おほろ夜や藪根にすける水明り  
 磯の海苔浪もひまあるにほひ哉  
 暮る空見あけるかたや松に藤  
 つまついた木の根も花のゆかり哉  
 涸川を覆ふて青む柳かな  
 水にうく影猶さらや若みとり  
 夜の雨をあます棚田や雉子の声  
 すみくく沼田に入るやはるの水  
 養父入やものなつかしき腰扇  
 枯芝にすへる草履やうめの花  
 露に雨こ、ろみに茶もひとりかな  
 炉ふさくもけふをなくさむひとつ哉  
 此ころの日さしや窓に梅のかけ  
 すき間なく固むや鉢の梅の花  
 月にはやおしうつりけり遠千潟  
 黄鳥や柴ふね流しゆく  
 梅か香や窓からみゆるあすの空  
 はや年の汚れみせけり注連の内  
 庭木までうつすや笑ふ山つ、き  
 安らかに花もみめくる小舟かな  
 伊勢よしのゆかしくおもふ日のはしめ  
 次の間や早元日のぬきちらし  
 春の空はやと、のふや日の出前  
 一けしきまたそふ鐘や月と梅  
 価なきもの、尊しはつ若菜  
 にははひをふくむ閑やけさの春  
 手くりした膳もまたせてきそはしめ  
 梅さくや跡なくなりし宵の雪  
 日の出まつ人や潮のはつ手水

北梅 梅臣 樗山 麦紫 一化 亭々 麦鳥 左一 羅村 應可 蟻城 蓬固 半夢 騏郷 宇雀 董坡 葛路 帆風 草尺 青芽 嵐艸 抱節 茶雷 文居 鷗池 雲外 烟波 松堂 麦翠 習竹 婦牛 元史 卓郎 氷壺 露心 永機 可尊 梅笠

戸もひかて飯くふ家や雨の雉子  
 おもふ事ない時に見る柳かな  
 露の芽やきのふ売たる白のあと  
 黄鳥も来よいと見へてひとへ垣  
 苗床や咲て久しき福寿草  
 むれ出すやその日くの春の鳥  
 梅白しき、波ひるはしり枝  
 我庵や七草粥の手一合  
 賞美した跡すてやすし露のたう  
 谷々や春にしたかふ水のおと  
 冴かへる空やほとけて梅の花  
 風さそふ人の袂やはつかすみ  
 揚ながら雪水ほすやいかのほり  
 初空やむかふかたより日の匂ひ  
 昼過の水りをおすや流れ藁  
 海山とわかる際より初からす  
 空豆の二葉や門のはつかすみ  
 おもしろき日数ふくみて梅の花  
 ひとつ葉も草木はしれて神の春  
 山里は何に遊ぶそはなのほる  
 しほらしき羽に似ぬ蝶の往来哉  
 身に過し初夢もなし草の宿  
 揚おろす雲雀や見つ、人も行  
 手にとりて燈しをまつや懸想文  
 かと明る空に辞宜してけさの春  
 齋うつ音ひと冴や朝またき  
 膝の塵はらひに立や垣かすむ  
 蓬萊にむかふや膳につくいとま  
 山際や笥の台を梅の中  
 こ、ろより青みおほす柳かな  
 そむくのも春のすかたや鴛の中  
 春風の懐ぬけるぬるみかな  
 遠山や柳につ、く春の色  
 なかぬ間を鶯人に見られけり  
 人かけに花影さすや夜の梅  
 雨はれや川の左右の揚雲雀  
 鶏にこ、ろしつめて初からす  
 七草やさ、やかつ、てありあまる

新甫 貫平 陳良 芦城 宇山 みき雄 峰山 海了 普陽 弘湖 棕父 芳艸 太年 然々 松頂 甘茶 荷少 五休 樹石 波鷗 卜早 抱齋 完鷗 瓦村 苜磨 不染 尋香 見外 抱義 香以 香芸 泰山 五雀 桃人 芦月 留我 青々